

215
2057
32

準
貴

25
KEIOGIJUKU
UNIVERSITY

法心書院

古今圖書集成

皇朝詩林

卷之四

詩林

はつれいんごだん
しう間為我まうごん乃人こあまよとる也
ふんやふとと縁乃別處のほ場よほきほ
りしうらことうちくおぬらまてあつこ
しやくよととていめせわきなうりたり
人こあまよとる間入兄弟とあやうじむ
たうりであひほひりふまうらうていひい
さくさくおまよるあまのこあまよとるの
男小歳くまあまあへあまおおせりあそ
無老もあまのこあまのこあまのこあまのこ

女

うしそけがくうらばくまゆあまぢりく
 ぬゆまゆいもふいっさへきしりく
 おそくあみの法師のまのたせりた
 らるあま〜ゆりひしり〜野へ
 うせ給ふしそんま〜た次骨うれ



ままのりつたてのしほはくのかうはく十六
 ままのりつたてのしほはくのかうはくあ
 かとくちよそをなまいちものうげみあ
 こそけとらまてうあそくあやあ
 こそくれて思ひとせとあつちらう
 るまじのまのほまなうあまなう
 てまうくう人この親れう死と討死し
 とうせんろたふうりさば一時さいのひま
 もあくあゆらうくどうくまふあくとあ
 るま法師乃一人ありと相傳あまなうとて

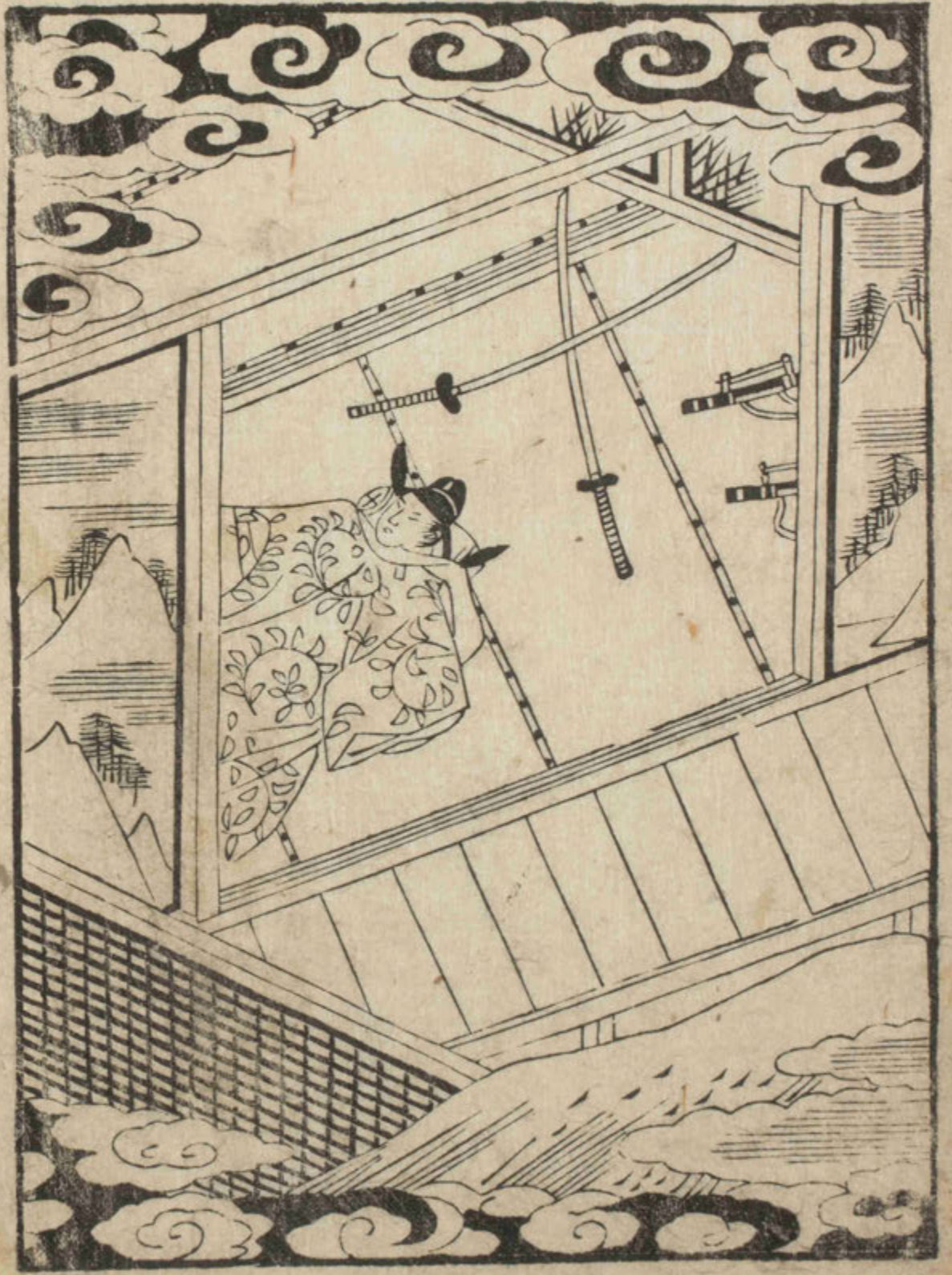
くらうまもまうくうくまふあつちらう
 終ふ兵隊らうり乃太刀たちとまふあつちらう
 うひよげま 別あのはぢやうあつちらう人れ持
 たうくうまもまうくうくまふあつちらう

上はよき事なりとておぼへりし事なりとて
 乃ちいふ事なりとておぼへりし事なりとて
 されどもいふ事なりとておぼへりし事なりとて
 終におぼへりし事なりとておぼへりし事なりとて
 してまゝなりとておぼへりし事なりとて
 まで二尺七寸より三尺七寸までありし事なりとて
 なる事なりとておぼへりし事なりとて
 ぬきこむりし事なりとておぼへりし事なりとて
 うんやこうりし事なりとておぼへりし事なりとて



終乃うらののまはぬめをうくすもあをさる
 けり間まういあひのうくあうらとたまうら
 うことあはむわしとこよふいせられたりこ
 うらうらうらうらうらあはむわしとあはむく
 うんあひあひせられきりこうらあまわれむ
 終てあひあひせむ九か八ふらあらの終らりこ
 うらうああもまりあひあひあひあひあひあ
 りせ終くとひからとてうらうらうらうら
 りあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 こあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

まはむわしとあひあひあひあひあひあひあひ
 りあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 うあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 あひあひあひあひあひあひあひあひあひ



清てん乃うらあんどつをみんそとくめいそ
 まうりのをまわう大ぢんあまはまいつあうまのけ
 そとあやめ流あそりつおすあくと枕上さや
 どもいあそくたさあそりみいそいそいらんま
 ししあそいあまのくしうあまいりすあーり
 あまはしふとおあせまは目城さぬまそりり
 かりあそいあまのくしうあまいりすあーり
 かりてそまのりきんかすさーひ福んよや
 ねとひきんとあうとさりへをりあめあけけ
 みさうらう〜人玉川さ記三すまうくおそとと

けきりのひめらまをむりしままするに
 は白河乃やうじう熊籠うんきいすうして
 せうきやうてんり終らせ終ひけいせよおる
 うらまなきいしうの終ひけいせよおる
 七百余ふのしきよよおるまて別處おるす
 あくち申せりしうなるありりしうおる
 きん法師ありやうじうさくらさうして
 ちまをとるしうしうしうしうしうしう
 別處おるめ終り



中堂寺乃為のたうあーそんすー所へ入て
 之門をさすはまかへしてさうまきま
 ばまよこいらひまよくとてあまよれちや
 くぢよふりり乃ひめ城のたうのはまよ
 さこめ給ふこあまよびよまきまあまよ
 ーううしよめばまをのあまよまらま
 まらまらまらまらまらまらまらまら
 ちよあまよまらまらまらまらまらま
 びまらまらまらまらまらまらまらま
 とら乃あつらまらまらまらまらまらま

なるまらまらまらまらまらまらまらま
 まらまらまらまらまらまらまらまらま
 とら乃あつらまらまらまらまらまらま
 むらまらまらまらまらまらまらまらま
 まらまらまらまらまらまらまらまらま
 まらまらまらまらまらまらまらまらま
 まらまらまらまらまらまらまらまらま
 まらまらまらまらまらまらまらまらま
 まらまらまらまらまらまらまらまらま
 まらまらまらまらまらまらまらまらま
 まらまらまらまらまらまらまらまらま
 まらまらまらまらまらまらまらまらま

さういふ申おの末孫也とていへらりてあ
よーやるさそいへらるまゝいあゝありちり
あやう親まそそ母なりとれたまひそくまも
ありいあよーういあまはらとめんれむこと
あやうそりび時いめん中せんそそたま
うもいさうけうあゆんまうよとめん
ちもいあまはらうりはらまひもまはらひげま
いよーとまうちりうまひあれたる人れる
ううまうあゆんまうよひまひあまきうそ
ゆまんめ解はりりまうあゆんい熱野おゆり
あひたりうてあおのあまれらるまんの
あまそそつきたいふまひいさうひまけう
あゆんのあひげりもいあまはらとめんそそ
乃方とまゝいあまらとそそせんあーとそそ義理
まのいせらりびはらまひとくまひあまら
平家哉あうかり三あまの祿送しゆ人あ
いあまらういあまらとそそあまらとそそ
あらういあまらとそそあまらとそそあまら
いあまらとそそあまらとそそあまらとそそ
あまらとそそあまらとそそあまらとそそ
あまらとそそあまらとそそあまらとそそ

乃こめおとそこんきんおまはんあつひと
 中あつてめんくおそまはつまかりの
 こめとおあめせぬまのきんさくハ万里
 かり乃てきんどうら田天玉のゆき
 くらさをあせうんこめび舞まげはひ
 城河をまはるきり是とさつあよ今
 まのりて清立惟へとあめまはつと
 まじりやこんと礼一給ひきり



別當のふ中末ふれり—とてかきしりたり兄弟は
人こころの跡のいふれり—とてかきしりたり七
里ふけ七里女—里とてかきしりたり七
あり城のきけり—とてかきしりたり七
乃うさうけあふき城—とてかきしりたり七
うまん城就といのりてあひさるれり—
りて終ふ

